

# ニュースレター

## ——新聞から拾う医界の周辺あれこれ——

<15. 4. 1~15. 4. 30>

4月9日

■若い女性に多く、患者が100万人にのぼるといわれる「子宮内膜症」の原因が、アレルギー反応である可能性が高いことが、栃木臨床病理研究所長の菅又昌雄医師らの研究で明らかに。(読売)

4月10日

■聖マリアンナ医大難病治療研究センター(川崎市)は、バイオ関連事業の日本生物化学研究所(大阪府茨木市)などと共同で、納豆菌が作り出す酵素の一種に血小板の凝縮を抑制する作用があることを確認。(日経)

4月14日

■北海道大学の研究グループは、ワカメやコンブなど海藻に含まれる資源量が豊富な色素成分の一種に大腸がんの「自滅」を促して増殖を抑える働きがあることを確認。(日経)

4月16日

■花粉症やアトピー性皮膚炎などのアレルギーを抑える乳酸菌を、キリンビールなどの研究グループがマウスを使った実験で発見。(毎日)

■米ユタ大学の研究グループはエイズウイルス(HIV)が増殖するために不可欠な細胞内たんぱく質を発見。(日経)

4月21日

■老化が普通の人の5~10倍のペースで進み10代で死んでしまう早老症(プロゲリア)の原因遺伝子を究明するのに、米国立ヒトゲノム研究所などの共同研究チームが成功。(日経)

■マウスに遺伝子治療をして、肝臓からインス

リンを分泌させる実験に滋賀医科大と米ベイラー医科大の共同研究グループが成功。(朝日)

4月22日

■抜け落ちた乳歯の中に、歯や骨、神経など幅広い細胞に変身する能力を秘めた幹細胞を米国立保健研究所(NIH)の研究チームが発見。(朝日)

■手足の震えなどの運動障害が起きるパーキンソン病の症状が、神経細胞の成長を促す特殊な物質を脳に注入することで、大幅に改善することを英フレンチエイ病院などの研究チームが究明。(読売)

4月23日

■バイオベンチャーのネイチャーテクノロジー(北海道岩見沢市)は独立行政法人の国立環境研究所(つくば市)と共同で、バラの花びらから抽出した成分にうつ病の抑制効果があることを確認。(日経)

4月24日

■緑茶や納豆に微量に含まれるピロロキノリンキノン(PQQ)と呼ぶ物質が新しいビタミンである可能性が高いことを、理化学研究所の笠原和起特別研究員らが究明。(日経)

■オーストリア・ウィーン大学の研究グループは、皮膚表面の角質層を作るのにかかわる酵素を発見。(日経)

■米国立衛生研究所(NIH)の一部門である国立精神健康研究所は、体内にある2種類の物質を手がかりにアルツハイマー病を高い精度で診断できることを確認。(日経)